

兩說何れが正しいで有りませうか。以下事實と對照して判斷を下して見ませう。

○埔里社の平埔蕃部落

Y I 生

臺灣の中部なる埔里社平原は、原と臺灣西部の一帶に分布せしピイボオ蕃族が、移殖せる漢人との生存競争に失敗し、更に先住の土蕃と約束して退却せる移動地にして、數群の部族一平原内に集團し、同蕃族の研究上に趣味多き地域なるが、其の此地に移動するに至りし機會は、亦た人類の移住を考ふるに、一參考に資するを得べし、其の最初の移進者たるピイボオ蕃アリクン部族に屬するサヴァヴァ即ち北投社蕃(十一份庄に住す)に傳ふる口碑に曰く、

我が一族は、道光三年の以前に在りては、彰化地方の北投社に住みたりき、嘗て鹿を打たんが爲め、集

々大山に入りし時、水社の(埔里社南方の水社湖邊に住す)蕃人に遇へり、乃ち同社蕃に語るに、既住の地、日に漢人に侵佔せられ、居に安ずる能はざるの情を以てせしに、彼等は之を憫み、導きて頭人の家に至り、善後の策を諮らしむ、頭人仍て誘ひて埔里社の平原に至る、此時埔裏社及び眉社といへる二蕃の先住するありしも、尙未墾の土多くして、草木繁茂し、實に天賦の沃地なりと認めたり、乃ち悦び返りて一族に告げ先づ、男二十人、女七人と共に移り來り、酒肉鹽布の類を先住の土蕃に與へて草地と交換するを約せり、此時屢々山中に在る兇蕃の襲撃を被りしより、更に埔眉二蕃と約し、之をして防衛に當らしめたり、次て四年、他の同社蕃及び同族なる南投社蕃と共に二百名移來せしが、當時の頭人は名をウツチイエンと呼べり、其の初めて占居したるは今の埔里社街の東方茄苳脚附近なる舊社の地(今尙竹叢を繞らしあれども屢々出水に侵されて無住の荒埔と爲れり)なるが、爾後同族の移住相次ぎ、生

齒漸く加はるに及び、東北なる五港泉の地に遷り、

（此地亦今は住民を絶てるも同社開埔基業の址とし、
祭祖の儀式は此地に於て行ふを例とす）次て二十年

内外の間に各地に分住せり（然れども此ビイボオ蕃
族の移進は、一面には漢族の煽誘に導かれしこと、

埔里社紀略に、「道光三年遂有萬斗六社革通事田成
發、詭與埔社蕃謀、招外社熟蕃爲衛、給以荒埔墾種、

埔社聽之、田成發乃結北投社革屯辨乃貓詩、革通事
余貓尉、招附近熟蕃、潛往復墾、而漢人陰持其後、

俟熟蕃墾成、溷入爲侵佔之計」といへるに徴して之
を知るべし）、

之と殆ど同時に移進し來りし、ビイボオ蕃族のバゼッへ
部族に屬するアオラン即ち烏牛欄社蕃（烏牛欄庄に住す）

に傳ふる口碑に曰く、

漢人の臺灣に入り來るや、我が一族の先住地を占有
し、生計に餘裕なきに至りしが、會々蕃丁鹿を獵す
る爲め、北港溪上流の龜仔頭坪に入りて、埔裏社蕃
と邂逅し、同蕃の語る所に依りて、此附近の山に廣

潤肥沃の地あるを知り、乃ち相伴ひて山奥に進みし

に、果して一好土あり、此時埔裏及び眉の二蕃先住
しありしが、之と約して草埔を得、遂に舉族移住せ

り、是れ道光三年の事にして、當初名をアタワイマ
ネといふ者頭人として同族約百餘名を率ゐ來り、

アオラン社蕃と同時に移住せし、同部族ラルサイ即ち阿
里史社蕃（阿里史庄に住す）に傳ふる口碑に曰く、

我が一族が、烏牛欄社蕃と共に埔里社に入り來りし
は、道光三年に在りて、名をタンロアキイと呼ぶ者

頭人として率ゐ來り、初め茄苳脚の舊社の地に在
りて、北投社蕃と同棲せしが、爾後同族の移來多き

を致せしより、分れて他に部落を獨立するに至れ
り。

次て道光九年の頃移進し來りし、ビイボオ族に屬する

ボアツォサア部族のアソ、即ち阿東社蕃（下梅仔脚庄に住す）

に傳ふる口碑に曰く、

我が一族は、初めツアイリイ（眉裏）及びタンレエ（東
螺）二社蕃と共に埔里社に移り來り、今の埔里社街

の東方なる舊社に住みしが、爾後同族の増加すると共に各附近の地を開拓し、今の如く四方に散居するに至れり、其の統せる頭人の名をハッイと呼べり、又咸豐十一年移進し來りし、ビイボオ族のタオカス部族に屬するホネヤン即ち吞霄社蕃(八股庄に住す)が、祭祖の儀式に唱ふる歌謠中、左の意味を表するものあり、我が一族は、原と臺灣の廣濶なる平地に住み、外に出て、鹿を打ち、内に在りて田を耕し、安樂の生活を營みつゝありしに、會々漢人の入り來るに及び、我が土地を侵佔し、我が産業を奪掠し、尙我が一族を苦累せしと一再ならず、會々東方山中に好地ありと聞き、乃ち老幼相扶け、男女相携へ、山を越え、水を渡りて、今の地に移り住むに至れり、是れ全く頭人ウオグヴェンソンの力による、(附記)、今移進ビイボオ蕃族各社の、最初に於ける進入年代及び其の形成部落、之を統率せる頭人の名を一表に記すれば左の如し、

ンラブガ		ハ ツ セ				バ			ンクリア		族部				
タオバリイ	ハジュヴァン	ヴドル	カラフット	タラウエル	ルタウラトル	バセフーア	ミサン	ヴァルト(社寮角)	サンント	ババタカン	ラルサイ	アオラン	ヴァロオ	サヴァア	蕃社名
(東螺)	(大肚)	(水裡)	(大浦)	(水底)	(葫蘆)	(藤薯)			(山頂)	(大馬)	(阿里史)	(烏牛欄)	(猫羅)	(北投)	進入時代
道光九年	咸豐三年	道光十五年	咸豐元年	咸豐元年		道光五年			道光五年	道光五年	道光三年	道光三年	道光末年	道光三年	統率頭人
ヴァシン	ガゲ	オーラ	アシロオ	アシロホロ		タオヴァハ			カラオホ	ホアヌ、スン	タンロアキ	アタライマ	リツイセエ	グツチイエ	占居部落
林仔城。	大肚城。生藩腔。	水裡城。	大浦。	蜈蚣崙。		牛眠山。			守份城	大瑪璘	楓仔城	烏牛欄。	文頭股。中心仔	鹽土。枇杷城。十一 价。水頭。中心仔。牛 洞。白葉坑。九橫。楓	

ア	サ	オ	ガ	ア	ボ
マカタウン (二林)	アソク (阿束)	ヴァイリイ (眉裏)	タリウ (馬芝邊)	タナタナハ (双葉)	ヴァラヴァル (日北)
道光末年	道光九年	道光九年	道光末年	道光三年	道光三年
リム、キン	ハッ イ			ボアヌ、スン	ダヌ、ボアキ
興吉城。	枇把城。下梅仔脚。	下梅仔脚。	興吉城。	双葉。	日北。水尾城。下史 港坑。上梅仔脚。
タオラフ (斗六)	ホネヤン (吞霄)	ララオラル (房裡)	タダハンナ (日南)	タダハンナ (日南)	タダハンナ (日南)
道光末年	咸豐十一年	道光廿四年	道光十六年	道光十六年	道光十六年
テンイユヌ	ゲオク ウエ ンソ	タンケア	ラムマイ	ラムマイ	ラムマイ
鹽土。白葉坑。	八股。	房裡。	日南	日南	日南

其の他少数なる他部落の移住ありしといふも他社に併合して所屬判かならざるを以て省略す、

○臺灣縣面番のお伽噺(承前)

森 丑之助

「はるす」の話

昔し我れ等蕃族のうちにハルスなる大男ありき、身體の偉大なるのみならず、怪魔の力を有し其振舞傍若無人にして、衆人は之を恐怖すること甚しく殊に婦人の如きは、この名を聞かしても戰慄せむ計りにして安き心なかりき、

彼が濶歩するや大なる川も一跨ぎにして五六歩も進めば如何なる高山にも達し今日は東明日は西と電光の如き速力にて各處に出没し時には婦人が屋内に機を織れるを戯に外より小指にて突きなどするに其婦人は忽ち倒れ死し時には溪流の漲りて衆人の渡り得ざるを見るや己の陰具を露はし之を橋に代へて對岸に架し人を渡し或は他人が山に狩せるを途中に要し大なる彼が口を開きて兩手を以て扇げば鹿や猪は彼が口中に飛入りて狩獵せるものは爲に獲物を得ざること屢々なりしと茲に於て彼を征伐するにあらざれば我等は堵に安ずるを得ずとて遂にハルス退